

項	目次
1	略語集とリスクレベル
2	政治及び戦闘状況:概要
4	人道的状況

Glossary

IDP	国内避難民
IED	即席爆発装置
INGO	国際非政府組織
IS	イスラム国
KRG	クルディスタン地域政府
KR	クルド人地域
NGO	非政府組織
PKK	クルド労働者党
PMU	人民動員部隊 (政府が種族や宗教に基づいた人民軍を構成)
SGBV	性別、ジェンダーに基づく暴力
UNMAS	国連 地雷対策サービス部
HNO	人道ニーズ概況報告

この文書はジャパン・プラットフォーム内およびその関係者のみの利用に限ります。この文書は、JPF セキュリティアドバイザーの同意なく、再配布することを禁じます。

以下文書内で“コメント…”とイタリック体で記載され、後述の文章もイタリック体で記載されている場合、筆者の意見を述べており、事実ではないことがあります。

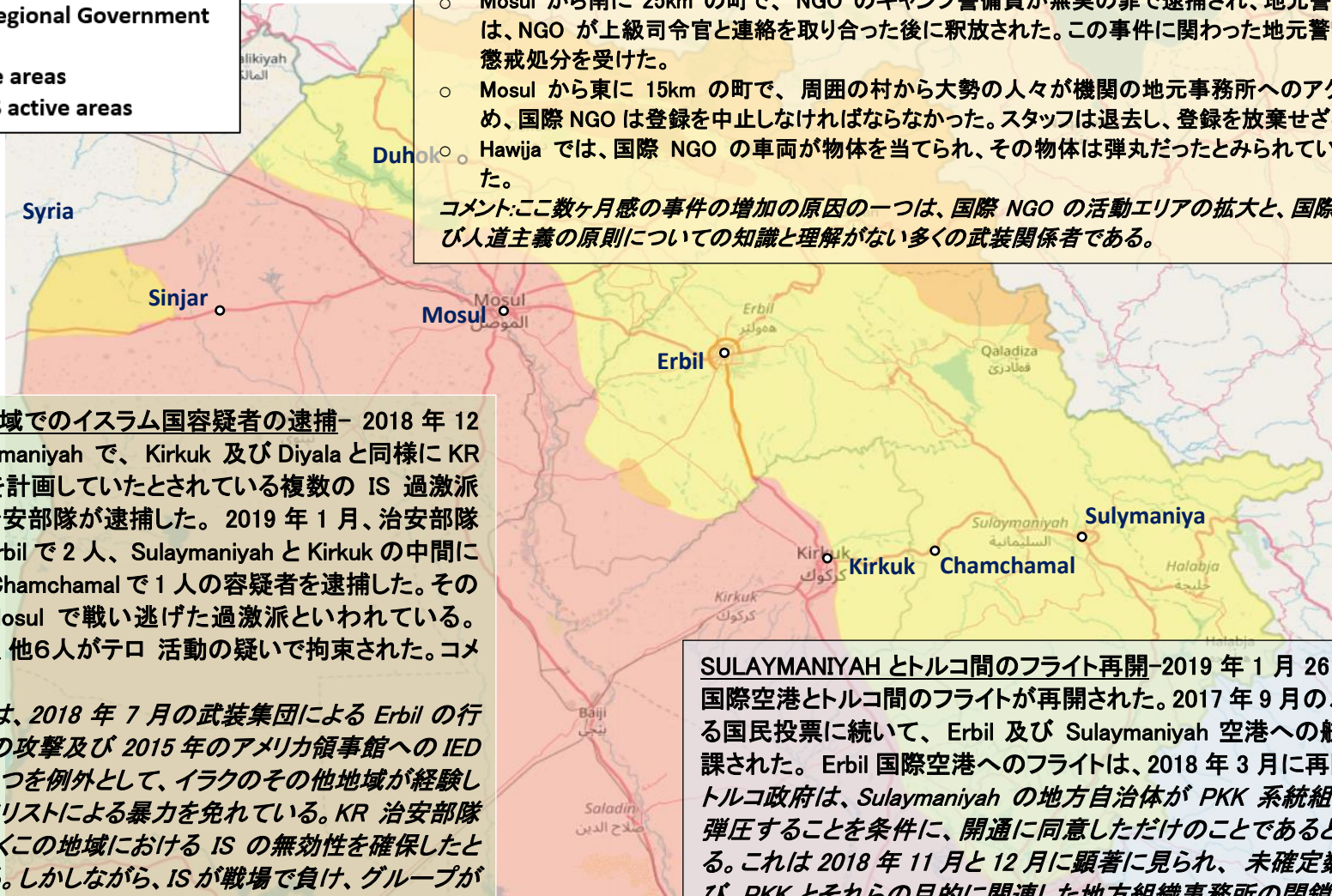
免責事項: この文書の目的は、情報と分析をし、アドバイスを提供することです。ジャパン・プラットフォームは、この文書に基づき、読者がいかなる行動や措置をとった場合でも、責任を負いかねますことご了承ください。

ロケーション	リスクレベル	コメント	フォーキャスト
Erbil, Duhok, Sulaymaniyah, Zokho 及び KRG 境界内にある都市間のルート (下記で高に分類される地域は除く)	低	KRG とイラク中央政府との関係の改善、KRG 治安部隊の継続的な有効性、そして国際 NGO が絡んだ数件の事件が、リスクレベルを中から低に下げることが可能にする。	*トルコ軍と PKK の衝突、トルコの空爆は継続するだろう。* Sinjar における政治的緊張状態の継続。*国際 NGO にとっての主な脅威は Erbil での SGBV 事件、及び道路交通事故である。
Kirkuk 行政区域、Hawijah 行政区域、Mosel, Telafar, Sinjar 地区、トルコとイラン国境沿い 10 キロ以内のエリア	高	国際 NGO はこのエリアでの活動を続けており、国際スタッフも訪問している。しかしながら、強力なセキュリティオペレーティング手順、緊急時対応策及びよく訓練された有能なスタッフは不可欠である。また機関は、高い危険閾値、高い回復力も求められる。	*記載されている場所の貧弱なセキュリティの未改善は、中程度先の将来まで続く見込みである。*国際 NGO スタッフへのハラスメントは、国際 NGO の活動エリアが拡大するほどに増加するだろう。*リスクレベルはおそらく高いままであろう。

1. 政治及び戦闘状況: 概要

(Map Source <http://syriancivilwarmap.com>)

- Government of Iraq (GoI)
- Kurdish Regional Government (KRG)
- PPK active areas
- Yezidi YBS active areas



NGO 事件 - 2019 年 1 月、国際 NGO は引き続きアクセスとインプランテーション問題を抱えていた。地元の武装した関与者は、中央政府によって規定されているものに加えて、彼ら自身の非公式文書のアクセス要件を共用した。さらに、NGO と国際 NGO は下記の事件を経験した:

- Mosul の国際 NGO 事務所が侵入窃盗にあった。事件時、スタッフや警備員は不在であった。
- Mosul から南に 25km の町で、NGO のキャンプ警備員が無実の罪で逮捕され、地元警察に襲われた。警備員は、NGO が上級司令官と連絡を取り合った後に釈放された。この事件に関わった地元警察の司令官は、その後懲戒処分を受けた。
- Mosul から東に 15km の町で、周囲の村から大勢の人々が機関の地元事務所へのアクセスを強要してきたため、国際 NGO は登録を中止しなければならなかった。スタッフは退去し、登録を放棄せざるを得なかった。
- Hawija では、国際 NGO の車両が物体を当てられ、その物体は弾丸だったとみられている。怪我人はいなかった。

コメント:ここ数ヶ月感の事件の増加の原因の一つは、国際 NGO の活動エリアの拡大と、国際 NGO/NGO の役割及び人道主義の原則についての知識と理解がない多くの武装関係者である。

クルド人地域でのイスラム国容疑者の逮捕- 2018 年 12 月に Sulaymaniyah で、Kirkuk 及び Diyala と同様に KR での攻撃を計画していたとされている複数の IS 過激派を KR の治安部隊が逮捕した。2019 年 1 月、治安部隊はさらに Erbil で 2 人、Sulaymaniyah と Kirkuk の中間にある町の Chamchamal で 1 人の容疑者を逮捕した。その全員が、Mosul で戦い逃げた過激派といわれている。Erbil では、他 6 人がテロ 活動の疑いで拘束された。コメント: KR

の大部分は、2018 年 7 月の武装集団による Erbil の行政庁舎への攻撃及び 2015 年のアメリカ領事館への IED 攻撃の 2 つを例外として、イラクのその他地域が経験しているテロリストによる暴力を免れている。KR 治安部隊は、おそらくこの地域における IS の無効性を確保したと考えられる。しかしながら、IS が戦場で負け、グループが非対称戦争に移行したことから、KR、特に Erbil でのさらなるテロ攻撃のリスクが高まる可能性がある。

SULAYMANIYAH とトルコ間のフライト再開-2019 年 1 月 26 日、Sulaymaniyah 国際空港とトルコ間のフライトが再開された。2017 年 9 月の、KRG 独立に関する国民投票に続いて、Erbil 及び Sulaymaniyah 空港への航空旅行禁止令が課された。Erbil 国際空港へのフライトは、2018 年 3 月に再開された。コメント:トルコ政府は、Sulaymaniyah の地方自治体が PKK 系統組織とその支援者を弾圧することを条件に、開通に同意しただけのことであると広く報じられている。これは 2018 年 11 月と 12 月に顕著に見られ、未確定数の個人の逮捕及び、PKK とそれらの目的に関連した地方組織事務所の閉鎖と共に、2019 年まで続いた。

- Government of Iraq (GoI)
- Kurdish Regional Government (KRG)
- PKK active areas
- Yezidi YBS active areas



新境界線関税協定

2019年1月中旬、KRGとイラク中央政府は、物資の円滑な移動を促すため、内部の境界線を越えた際の関税を統一することに合意した。イラク政府が境界線において管理を課す必要性が生じたのは、KRGがイラクとトルコの国境のすべて及びイランとの国境の長さを統制しており、そして中央政府は国際的横断地点からの歳入を得る権利があると考えているからである。2つの政府間においてこの問題は解決したが、地方自治体と武装関係者は、いくつかの横断地点において地方関税を集め続けている。コメント:これは、BagdadとErbil政府間の関係性改善のもう一つの例である。

北イラクでのトルコの空爆に対する暴力的抗議活動

2018年、トルコ軍は北及び北東イラクの山岳地帯にあるPKKのターゲットに対し、約350の空爆を行った。このレベルの活動は2019年まで続いたが、2019年1月に起こった3件の空爆では民間人7名が死亡、民間人2名が行方不明となった。その時、民間人は漁業もしくは養蜂をしており、5名はKRG治安部隊のメンバーであったと伝えられている。

1月26日には、地元住民がその死に関する抗議活動を行い、Dohuk行政区域のSheladze Townにあるトルコ軍駐屯地でデモ行進を行った。抗議活動は暴力的になり、抗議者達は軍の施設に侵入して複数の車両や、武器庫を含む建物を燃やした。群衆を分散させるため、トルコ軍は空中に武器を発射したが、2名の抗議者を死亡させることとなった。また、トルコのジェット機は群衆を威嚇しようと頭上を低空飛行した。抗議者を二人死亡させたことについて、抗議者を殺害したことについて、イラクの中央政府がトルコ軍を非難する一方、KRGは事件の責任はPKKにあると非難した。コメント:この事件についてのKRGの姿勢は、KRGがPKKに対していかにますます活動的となり、トルコとの関係を育てているかを反映している。

イラクの議会在新予算を承認

1月24日、イラクの議会は数週間に渡る意見の対立の末、大幅に修正された2019年の国家予算を承認した。予算は1,120億ドルで、前年から27%増である。その予算は、ISから解放された地域のための復興基金と、全国の投資プロジェクトのための280億ドルを含む。予算はまた、KRのPeshmerga部隊の給与を支払い、KRのシェアを12.67%から13.93%に増加させ、その地域に20億ドルの投資ローンを提供する。また、それはShia派のPMUに追加6,500人の戦闘員を募集するための資金にも割り当てられる。

しかしながらこの予算は、税金や凍結された政府給与を増やしていたであろう、国際通貨基金との合意に違反している。

コメント:政府と南部の行政区域が高等裁判所で議会の修正案に異議を唱える中、予算の執行は数ヶ月間延期されると予想されている。

2. 人道的支援状況

主要な数字

2019年、何千もの家族がIDPとして5年目を迎える。これに伴う困難にも関わらず、出身地域が未だ安全性、サービス及び社会的結束が欠如しているため、調査を受けた大多数が避難所に留まるという意思を示した。

IDP数: 1,802,832

帰還者数: 4,165,320

シリア難民数: 252,772

シリア以外の難民数: 44,019

無国籍者数: 47,630

懸念のある総人口: 6,312,573

主要な優先事項とハイライト

- 2019年のHNOによれば、2019年には約670万人が人道支援を必要とする。
- 安全で、尊厳があり、自発的なIDPの帰還
- 基本サービスとインフラの改善
- IDPの継続した帰還のための、収入を生む機会の増加
- キャンプを拠点としたIDPのたった9%が2019年中頃までに出身地域への帰還を計画している間、イラク政府は12,000人以上を保護している3つのIDPキャンプを閉鎖した。
- IDPの帰還のための促進、サポート及び課題の解決は、2019年の重要な活動である。**

主要な進展

救援活動者は、イラク全土の脆弱な人々に対し、避難所の支援及び冬の暖房装置に必要な灯油を含む冬の支援を提供している。12月18日半ばの時点で、救援活動者は9万世帯近くに支援を提供し、それは一団の2018/2019の冬シーズンにおける目標の約80%である。

自然災害

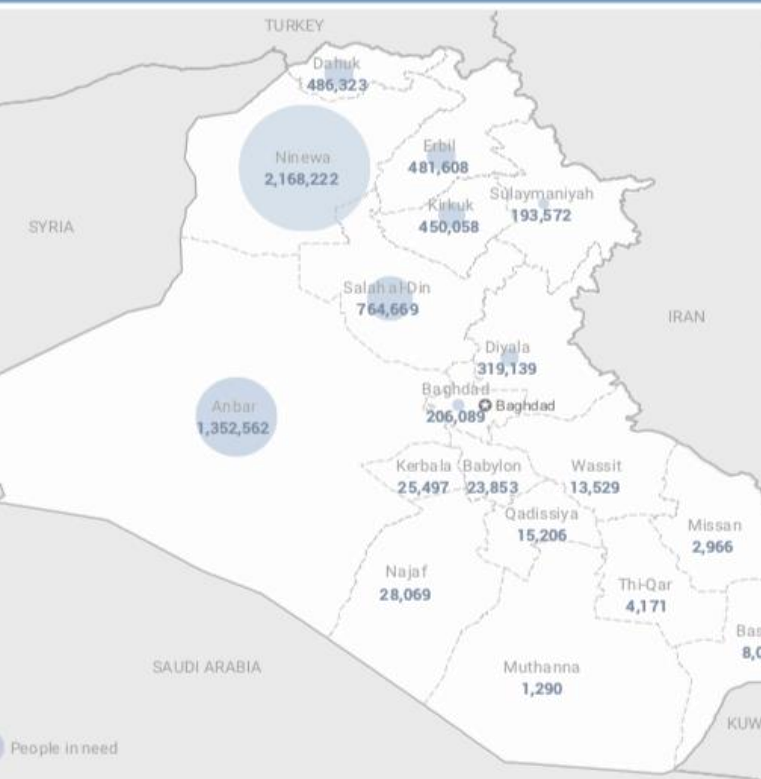
北西及び中央イラクで少なくとも32,000人を襲った2018年後半の洪水に加え、2019年1月28日の降水量はNajaf州で鉄砲水を引き起こし、Al-Rahimiya村で50軒以上の家を破壊した。優先的に必要なものは、避難所、生活必需品、そして食料である。

TOTAL POPULATION OF IRAQ

37M

PEOPLE IN NEED

6.7M



Population Figures Over Time



主要な人道的ニーズ

保護と生活手段は、2019年も引き続き人道的に最重要優先事項である。

- 多くのIDPは、空爆及びISによって残された即席爆発装置に関連した、UNMASが「重大爆発性危険物」と呼んでいるものが原因で未だ住む家がないか、もしくは家へ帰還できない。Mosulのみにおいても、安全を確保するには戦いによって発生した推定760万トンのがれきがある。
- 「人々は、飲料水や医療、生計の機会、安全、不発弾の排除を含む、十分な住居及び基本的なサービスを必要としている。」赤十字国際委員会 総裁 Peter Maurer
- 2019年のHNOによると、約250万のイラク人が緊急食糧援助を必要としている。ニーズは、特にAnbar、Diyala、Dohuk、Erbil、Ninewaにおいて、キャンプを拠点としているIDP及び脆弱なホストコミュニティのメンバーの間で最も高い。
- 2019年のHNOによると、来年には推定550万人が健康支援を必要とする。医療サービスは、深刻な器材不足と人員不足にある。特にIDPの間では、心理社会的支援が必要である。
- 多くの医療施設が避難によって損害を受け、略奪に遭うかスタッフを失った。Ninewa、Salaheddin及びAnbarでは、22の保健所が破壊され、101以上が一部損壊し、それらの行政区域の3分の1の人々に影響を及ぼした。

ソース:

<https://www.unicef.org/iraq/what-we-do/health-and-nutrition>

<https://reliefweb.int/report/iraq/mosul-s-3d-contamination-adds-challenges-deadly-mine-clearance-work>

<http://iraqdtm.iom.int>

<http://reporting.unhcr.org/sites/default/files/UNHCR%20Iraq%20Factsheet%20-%20December%202018.pdf>